

TGR
2016
TGR大賞作品



文化4年、西暦1807年、 蝦夷地北方で起きた津軽藩士大量殉難事件

ホエイ 公演

「珈琲法要」

作・演出:山田百次

史実以上に色々なことを考えさせてくれる作品。
これを道外の劇団が創ったのかと思うと、道産子としては
嫉妬してしまいますね(笑)(公演アンケートより 30代・女性)

涙をこらえすぎて、胸が痛くなりました
(公演アンケートより 20代・女性)



Photo:NagareTanaka

STORY

江戸後期、文化4年。開国を求め蝦夷地北方に襲撃を繰り返すロシア帝国。幕府は警備のため計3000名の出兵を東北諸藩に命じた。津軽藩は500余名を派兵。うち100名が斜里地方の警備にあたった。しかし東北とは比べものにならない寒さ、原因不明の病のため兵士は次々に亡くなっていく。それを受け幕府は、南蛮渡来の飲み物「珈琲」を津軽藩兵のもとに配給した。人々は万病に効くといわれるその飲み物を、病が治ると信じて飲むのだった。

CAST

河村竜也(ホエイ/青年団) / 山田百次(ホエイ/劇団野の上) / 菊池佳南(青年団/うさぎストライプ)

STAFF / プロデュース:河村竜也 照明:井坂浩 衣装製作:正金彰



Photo:NagareTanaka

全編津軽弁で語られるテキストの心揺さぶられる美しさ。史実に基づいた骨太なオリジナル脚本とシンプルながら巧みな劇構成、ZOOの小劇場空間で人物がわずか三人というどこへ向かうか分からない圧倒的な役者の押し出し力と、作・演出の山田百次の地に足の着いた物語の確からしさには、懐に吞んだ短刀を突きつけられるような緊張感を劇中ずっと感じました。(TGR2016審査員・四宮康雅さんの講評より)

Message

作・演出

山田百次

ホエイ / 劇団野の上

札幌劇場祭TGR2016で大賞を受賞した『珈琲法要』。それをまた札幌で上演する機会をいただきました。

これは津軽のお話であり、北海道のお話でもあります。そしてこの国の話であり、民族問題を抱える様々な国に関わるお話でもあります。

だからといって堅苦しい話ではありません。ふつうの感覚で観てもらえればと思います。

僕らはまだ、いつもの日常を暮らすことができています。その日常を守るために、平和を求める権利も当然のごとくあります。じゃあその権利を求めるためには、どういふ努力が必要なのか？そこは常に意識する必要があるんじゃないかと、この作品をやる度に感じます。

札幌演劇シーズン2018-冬という素晴らしい場での『珈琲法要』、たくさんの方に観ていただければと願っています。っていうか観に来てください。